



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 36 号

R3.11.22

文責 中西 勉



「足で勉強する」



▲「秋見つけ」をする1年生

機器の普及により、画像や映像を見て学ぶこともできますが、本物にふれる学びにはかないません。今後も「足で勉強する」ことを、どの学年も大切にしていきたいです。

先週、生活科の学習で、1年生が東公園へ「秋見つけ」に、2年生が「町たんけん」に出かけました。両学年とも、校外に足を運んで学びを深めたことで、学校にはわからない多くの事象に気付き、考えることができました。私は、このような学びを「足で勉強する」と呼んでいます。自分の足で現地を訪れ、そこの自然を観察したり、人に出会ったりして、本物とふれあって学ぶことこそ、真の学びにつながります。ICT

見えた！皆既月食に近い部分月食

先週 19 日（金）の午後 6 時過ぎ、大きく欠けた月が夜空に姿を現しました。きっと皆さんもご覧になられたことでしょうね。



シリーズ「東京オリンピック」⑫ ～47 都道府県から金メダリスト誕生～

これまで 11 回に渡ってお伝えしてきたシリーズ「東京オリンピック」。選手が奮闘する姿から多くのことを学びましたが、今回をもって締めくくりとしたいと思います。最終回の今回は、少し趣向を変えて、今大会で私が注目していた金メダリストに関わるある記録について紹介します。

今回の東京オリンピックを迎えるまでに、日本の選手は夏季・冬季合わせ、47 都道府県のうち 45 都道府県から金メダリストが誕生していました。今大会で、残る鳥取と沖縄の 2 県から金メダリストが生まれれば、全都道府県が金メダリストを輩出するという偉業の達成となります。

日本は、1912 年の第 5 回ストックホルム大会から夏季五輪に参加しましたが、日本勢の金メダリスト第 1 号となったのは、1928 年の第 9 回アムステルダム大会で陸上男子三段跳を制した織田幹雄選手（広島出身）でした。また、冬季五輪では、1972 年の札幌大会のスキージャンプ男子 70 メートル級で笠谷幸生選手（北海道出身）が優勝し、冬季の第 1 号となりました。

今大会では、まず、ボクシング女子フェザー級で鳥取出身の入江聖奈選手が金メダルに輝きました。これであとは沖縄を残すのみです。その沖縄には、今回から新競技となった空手の男子・形で、絶対的な強さを誇る喜友名諒選手が控えていました。喜友名選手は、金メダル最有力の期待に応え、沖縄県勢で初の金メダルを獲得しました。この瞬間、日本がオリンピックに初めて参加した 1912 年から 109 年の歳月をかけて、遂に全都道府県に金メダルがもたらされました。

私たちを多くの感動の渦に巻き込んだ東京オリンピック。でも、今年度は、2022 北京冬季オリンピックも開催されるスペシャルな 1 年です。また、その際には、再び感動を共有できるといいですね・・・。



▲入江聖奈選手



▲喜友名諒選手